

取組：小・中・高等学校を通じて、児童生徒の発信力を向上させるために、パフォーマンス課題を設定し、指導・評価するモデルを構築する。

当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

CAN-DOリスト形式による学習到達目標の設定が改善され、「話すこと」「書くこと」の力を見取るパフォーマンステスト実施の割合も全国平均より高い。一方で、中学校卒業段階で「CEFR A1レベル相当以上を取得している（有すると思われる）生徒の割合」は、国の目標50%に届いていない。このことから、CAN-DOリストの活用（公表・達成状況把握）に基づいたパフォーマンステスト（評価）の質の向上が課題である。

Plan

■取組計画

本事業の中心にワーキンググループを据え、専門的な指導助言を受けながら、研究指定校により研究を進める。その取組や成果を県教育委員会が日常的にインターネット配信することで、小・中・高を通じて指導・評価改善を図り、県下の英語力・発信力の向上につなげる。

■体制

ワーキンググループ (W.G) 大学教授（アドバイザー）・英語教育推進リーダー
 指定校研究主任・県指導主事他 計30名
研究指定校 12校（小学校6校・中学校4校・高等学校2校）
 本庁指導主事・教育事務所指導主事
山梨県教育委員会 総合教育センター指導主事・市町村教委指導主事
 ※動画撮影民間企業再委託あり

Do

- **ワーキンググループ (W.G)** ※会議（年3回：6月・9月・2月）
 - 県版CAN-DOリストに基づくパフォーマンス課題・評価基準表の例示
 - 研究指定校の授業実践、検証結果の分析、授業改善の方策を提示
- **研究指定校**
 - W.Gで検討したパフォーマンス課題や評価、指導計画等の実践
 - 提案授業の実践 ※令和3年度：17本実践
 - 研究指定校アンケート（年2回：4月・1月）・振り返りシート活用
- **山梨県教育委員会**
 - 研究指定校12校への継続的な指導・支援（学習指導案作成等）
 - 提案授業や研究会等を県下へインターネット配信
 オンライン生配信9本（県教委）・アーカイブ配信6本（民間委託）
 - 研究指定校アンケート・振り返りシート作成
 - 事業取組や成果の周知（教育課程説明会・各種研修会等）
 「中部地区英語教育学会山梨地区セミナー」成果発表（小中高連携）
- **成果物作成**
 - 研究指定校提案授業動画（6本）提案授業学習指導案（17本）
 ※CAN-DOリストに基づくパフォーマンス課題・評価基準表 掲載

Check

■「学習到達目標の活用」「生徒の英語力の向上」について

※令和3年度英語教育実施状況調査より（ ）内は令和元年度数値
 ・CAN-DOリスト設定：小98.2%(-) 中100%(85.0%) 高100%(100%)
 CAN-DOリスト公表：小21.7%(-) 中37.5%(12.5%) 高88.4%(62.4%)
 CAN-DOリスト達成状況把握：小65.1%(-) 中73.8%(70.0%) 高88.4%(62.4%)
 ・生徒の英語力：中39.3%(36.3%) 高48.9%(44.7%)

■「パフォーマンステストの質の向上」について ※研究指定校教員アンケートより

Q 児童生徒やALTとCAN-DOリストに基づいた評価基準表（ループリック）等を共有し、妥当性、信頼性あるパフォーマンス評価を行っていますか？
 A 「行っている」「どちらかといえば行っている」（肯定的回答）の割合
 R3年4月：小活動39.1% 小外国65.0% 中88.2% 高75.1%
 R4年1月：小活動73.7% 小外国88.9% 中93.8% 高100%

Action

- 数値は改善されつつあるが、目標管理書数値には届いていない項目もあり、県内外への成果波及を促進するためにも、以下の改善策を行う。
 - 令和3年度本事業の成果物の活用
 提案授業動画、学習指導案等を校内研究会や総合教育センターの研修会で実際に活用する。「言語活動を中心に据えた授業」や「教師の英語使用量が豊富な授業」など、小・中・高を通じて、授業の具体的なイメージを共有できるようにする。（小中高連携の推進）

成果の普及

山梨県教育委員会HP 英語教育改善プラン推進事業
<https://www.pref.yamanashi.jp/gimuky/shido/english/index.html>

- 研究指定校提案授業動画（限定公開）・学習指導案
- 山梨県版CAN-DOリスト
- ワーキング会議資料・研究指定校アンケート結果

